2026
10
Vol.57

鳥獣センター通信

発行元 鳥獣被害対策支援センター ☎0985(44)1816

Topics1　捕獲対策研修を実施しました
Topics2　1月に中小型獣対策研修を実施します！

Topics1

9月に捕獲対策研修を実施しました

鳥獣センターでは、被害防止対策の適切な知識の普及や、技術定着等を目的に技術向上研修を開催しています。今回は、9月12日（土）に綾町有機農業開発センターにおいて、県自然環境課と共催で実施した捕獲対策研修について御紹介します。







◆講師

小西俊一氏（県猟友会綾支部長兼農作物野生鳥獣対策アドバイザー）
室屋敦紀氏（西都市農林課兼農作物野生鳥獣対策アドバイザー）



◆室内研修

●効率的なわな設置技術と止めさしの基本
シカがエサを食べる際に、前足を一歩踏み出す習性を利用して開発された「小林式誘引捕獲法」について解説があり、動画や実際の道具を見ながら、くくりわなの仕組みや設置方法、止めさしの基本について学びました。
●鳥獣行政の現状
●綾町の事例紹介
●センサーカメラの活用

◆現地実習

綾町の町有林において、2人1組でのくくりわな（小林式誘引捕獲法）の架設実習を行いました。参加者の中には、初めて現場で設置を経験する方もおられましたが、講師のアドバイスを受けながら熱心に取り組んでいただきました。
また、現場に設置されている箱わなやサルの囲いわなを視察したほか、電気止めさしの手法についても学びを深めました。

◆研修を終えて

研修終了後のアンケートでは、「わなの実習や止めさしの説明が参考になった」との声を多くいただき、大変有意義な研修となりました。
有害鳥獣による農林作物被害を軽減するためには、捕獲従事者の協力が不可欠です。今後も本研修を通じて、新規狩猟免許取得者等の捕獲技術向上に引き続き取り組んでいきます。

Topics2

1月に中小型獣対策研修を実施します！

県内各地でアナグマ等の中型動物による農作物被害が発生しています。
また、特定外来生物に指定されているアライグマについても、県北地域を中心に目撃・捕獲されており、繁殖や生息域の拡大が懸念されています。

鳥獣センターでは、専門家を招いて「中小型獣対策研修」を実施しています。
昨年度は、アライグマの痕跡が確認された西臼杵地域で開催し、定員を上回る41名の方に御参加いただきました。

令和8年度の中小型獣対策研修は、現時点で左記のとおり実施予定です。皆様の多くの御参加をお待ちしております。

昨年度の研修





中小型獣研修の事前案内

日時：令和９年１月28日（木）10時30分～
場所：西臼杵農業改良普及センター
講師：野生生物研究所　ネイチャーステーション
代表　古谷益朗氏



☆鳥獣被害対策地域特命チームだより☆

東臼杵北部地域

スマート技術を活用した鳥獣被害防止技術の視察研修会を実施

延岡市では、スマート技術を用いた鳥獣被害対策の導入が進んでいます。7月22日に延岡市北川町瀬口地区にて、地域特命チーム関係者15名で視察研修を行いましたので、その内容についてご紹介します。

①遠隔操作システム付囲いわな

瀬口地区では、地区からの要請を受け、ドローンによるシカの生息調査を実施しました。調査区域内で二百頭以上を確認し、その中の十数頭の群の活動域に、遠隔操作システム付きの囲いわな（商品名：まるみえほかくん5）を設置しました。

一般的な囲いわなでは、1頭でも罠が作動してしまうことがありますが、遠隔操作システムは、捕獲者がわなの映像を見ながら捕獲のタイミングを決定できるため、1回で複数頭の捕獲が可能です。

現場では、餌を嗜好性の高い固形ペレットで餌付けするなどの工夫がされていました。

4月の稼働開始から9月現在でシカを4頭を捕獲しています。今後、捕獲頭数の更なる増加が期待されます。



遠隔操作システム付き囲いわな



シカ追い払い装置



現地視察風景

②シカ追い払い装置

延岡市では、令和5年度から大手電機メーカー等と共同で、シカの追い払い装置の実証に取り組んでいます。追い払い装置は、センサーで動物を感知すると、シカの忌避音を発します。

実証地周辺では、地元住民もシカの出没回数が減少するなどの効果を実感されています。

既存の対策に加え、これらのスマート技術を活用し、効率的かつ効果的に地域の鳥獣被害の減少に繋げていきます。

西諸県地域

西諸県地域では、鳥類による果樹への被害対策のため、鳥獣センターの事業を活用して、トリサッタの実証を行っています。

小林市では、梨・ぶどうの生産が盛んに行われていますが、カラスに梨を落とされたり、ヒヨドリにぶどうを食べられたりするなど、鳥類による被害が多発しており、その被害防止対策について、生産者から相談がありました。

そこで、鳥獣被害防止技術実証展示ほとして、カラスの被害が大きい小林市の果樹生産者のもとに、トリサッタを導入、音による追い払いの効果を検証しています。

トリサッタを設置した場所では一定の効果を示しましたが、音が止まった時やトリサッタから遠いほ場では効果が軽減することが確認されました。



①カラスによる被害

そこで、トリサッタに加え、バードパンチャーや、「加害性の高い鳥獣の重点捕獲支援事業」を活用した防鳥ネットの導入を支援し、今後トリサッタと併せた効果の検証を行っていきます。

今後とも、地域と協力して野生鳥獣の被害防止対策に努めていきます。



②設置したトリサッタ



③バードパンチャー